

令和6年度 基本施策評価シート

作成日

令和6年6月28日

| | | | |
|--------------------------|-------|------------------------|--------------------|
| 基本施策 | B2 | 核兵器廃絶の実現に向け、着実に歩みを進めます | |
| 2025年度に めざす姿 | 対 象 | | 意 図 |
| | 国際世論が | | 核兵器廃絶を求め、更に拡大している。 |
| 第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ | | | 70ページ |
| 基本施策主管課名 | 平和推進課 | 関係課名 | 被爆継承課、調査課、国際課 |

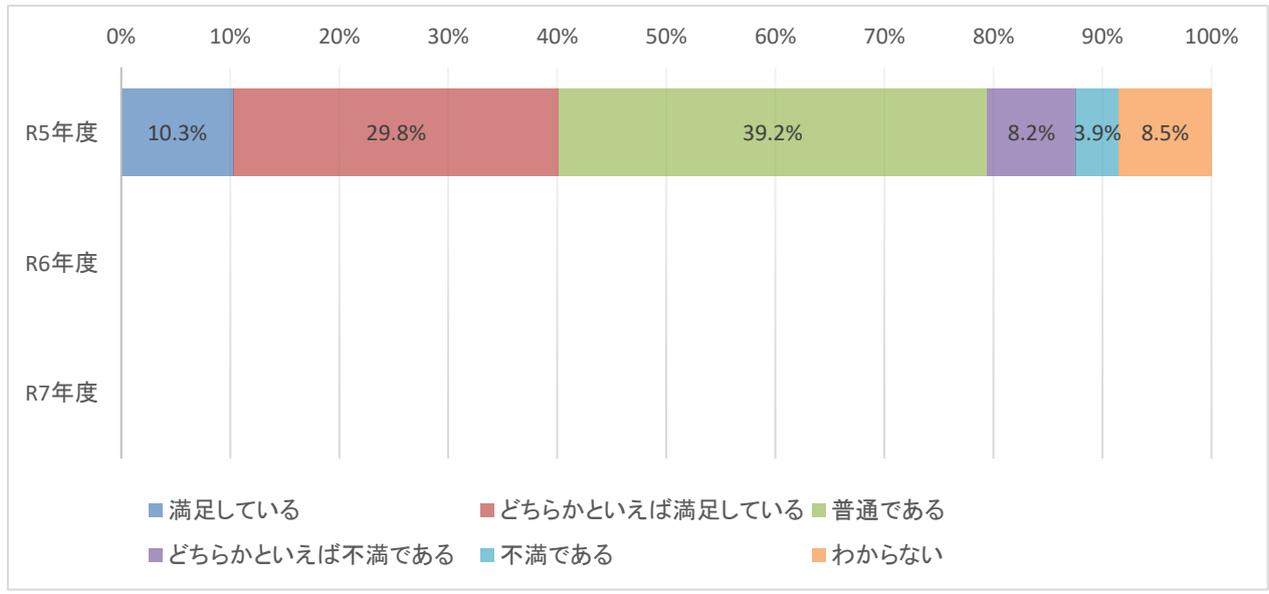
基本施策の総合評価

| | |
|------|---|
| 総括 | <ul style="list-style-type: none"> ●基本施策の成果指標である「平和首長会議加盟都市数」は8,378都市(令和5年度実績)で、2025年度(令和7年度)に目指す姿である8,784都市を下回っているものの、基準値である8,024都市(令和2年度)から順調に増加している。 ●様々な機会を捉えて被爆の実相を伝える取組みを行っているものの、核軍縮に向けた国際機運は停滞している。 ●市民満足度については、「満足している」及び「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合が40.1%で、「不満である」及び「どちらかといえば不満である」と回答した人の割合12.1%を大きく上回る結果であった。 <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p> |
| B2-1 | <ul style="list-style-type: none"> ●核保有国における核戦力の増強が加速するなど、核兵器使用のリスクが高まっている中、被爆の実相を伝えることがますます重要になっている状況をふまえ、国際会議の場をはじめ様々な機会を捉えて、「長崎を最後の被爆地に」という被爆地の思いをしっかりと伝え、その思いを共感をもって広げられるようなメッセージを発信していく。 ●ナガサキ・ユース代表団については、国連が創設したユース非核リーダー基金のプログラムにおいて来崎する若手リーダーとの交流の場を設けることなどにより活躍の機会を増やし、引き続き国際社会で平和をアピールできる若者の育成に取り組む。 |
| B2-2 | <ul style="list-style-type: none"> ●平和首長会議加盟都市のネットワークを拡大し、国際社会における影響力を高めるために、各国政府代表者や国際機関の関係者との面会時などの機会を捉え、加盟促進の協力要請を行い、加盟都市の更なる増加に向けて取り組んでいく。また、令和7年度に長崎で開催予定の平和首長会議総会に向けて、着実に準備を進めていく。 ●平和ネットワークの輪が広がるよう、姉妹都市等との都市間並びに市民間交流を深めていく。また、姉妹都市等での原爆展の開催、周年事業等様々な機会を活用し、市民同士の交流支援や情報発信の充実に取り組む。 |

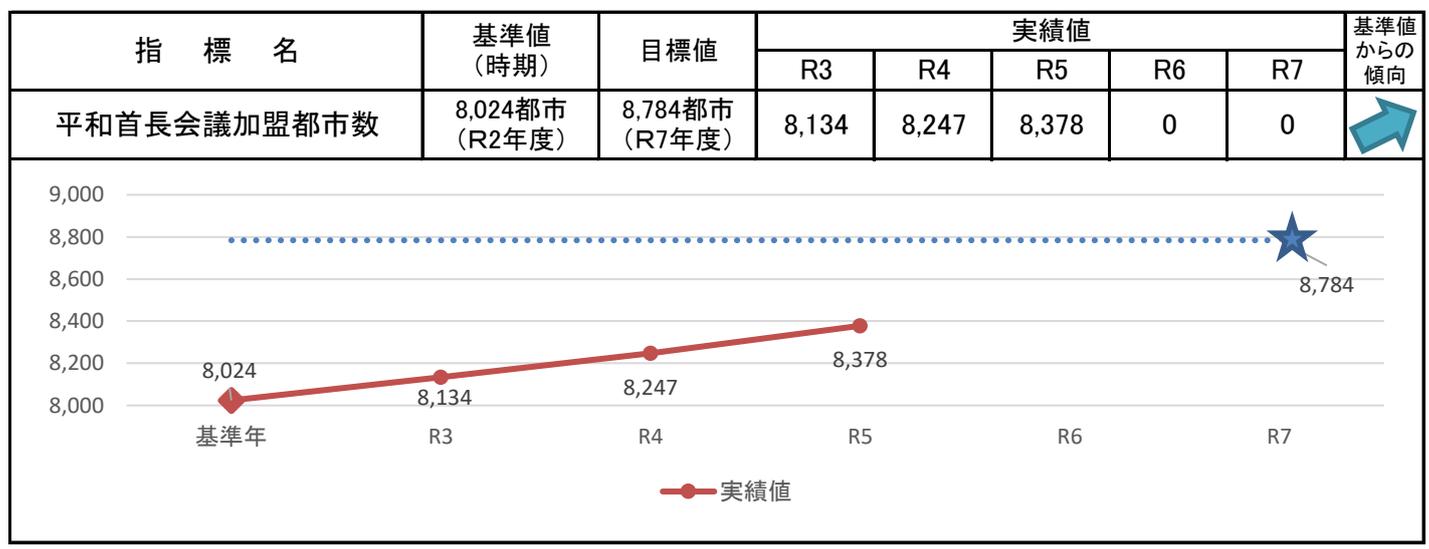
二次評価(施策評価会議による評価)

| | |
|---|--|
| ● | 【B2-1】 「今後の取組方針」の「①平和の発信」の具体的な取組みの記載を検討すること。 |
| ● | 【B2-1】 「今後の取組方針」の「②人材育成」の「ユース非核リーダー基金」の目的や取組みなどを記載すること。 |

基本施策に対する市民満足度調査結果



成果指標



年度別 主な取組内容

| R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|--|---|------|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議等での演説、関係者への要望による核兵器廃絶の推進(19回) ・ナガサキ・ユース代表団の人材育成による平和をアピールする若者の増(7人) ・姉妹都市等との交流による連携強化 ・長崎平和特派員の認定による平和ネットワークの拡大(1人) ・10周年記念事業による平和活動を行う若い世代の交流の場の創出 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議等での演説、関係者への要望による核兵器廃絶の推進(21回) ・ナガサキ・ユース代表団の人材育成による平和をアピールする若者の増(7人) ・姉妹都市等との交流による連携強化 ・長崎平和特派員の認定による平和ネットワークの拡大(2人) | | |

令和6年度 個別施策評価シート

| | | | |
|-------------|---------|-------------------------------|--|
| 個別施策 | B2-1 | 平和メッセージの発信力を高め、核兵器廃絶の世論を喚起します | |
| 2025年度にめざす姿 | 対象 | 意 図 | |
| | 国内外の人々が | 核兵器の恐ろしさを理解し、核兵器のない世界を希求している。 | |
| 個別施策主管課名 | 平和推進課 | | |

成果

① 平和の発信

●長期化するロシアのウクライナ侵攻などにより核兵器使用の危機が高まる中で、オーストリア・ウィーン市で開催された核不拡散条約(NPT)第1回準備委員会(7月31日～8月11日開催)や、アメリカ・ニューヨーク市で開催された核兵器禁止条約第2回締約国会議(11月27日～12月1日開催)に市長が出席し、会議での演説や各国政府代表者との意見交換等を通して、被爆地長崎の平和への思いを国際社会に訴えることができた。

●核兵器を巡る国際情勢がより一層厳しさを増す中で、12月9日・10日に「核兵器のない世界に向けた国際賢人会議」(外務省主催)が長崎で開催され、会議に先立ち、原爆資料館の視察や被爆体験講話などを実施し、委員に被爆の実相への理解を深めていただいたことで、核兵器廃絶に向けた議論を深めることに寄与した。

② 人材の育成

●核軍縮の知識を有する若い世代の人材を育成するために、ナガサキ・ユース代表団第11期生(7人)をNPT再検討会議第1回準備委員会に派遣し、最新の国際情勢を学ぶとともに、核軍縮の専門家や平和活動を行う世界の若者等と意見交換を行ったことで、国際社会で平和をアピールできる若者の増加につながった。

問題点とその要因

① 平和の発信

●様々な機会を捉えて被爆の実相を伝える取組みを行っているものの、核軍縮に向けた国際機運が停滞している。

② 人材の育成

●ナガサキ・ユース代表団の活動内容が恒常化しており、新たな活動の機会が少ない。

今後の取組方針

① 平和の発信

継続 ●核保有国における核戦力の増強が加速するなど、核兵器使用のリスクが高まっている中、被爆の実相を伝えることがますます重要になっている状況を踏まえ、国際会議の場をはじめ様々な機会を捉えて、「長崎を最後の被爆地に」という被爆地の思いをしっかりと伝え、その思いを共感をもって広げられるようなメッセージを発信していく。

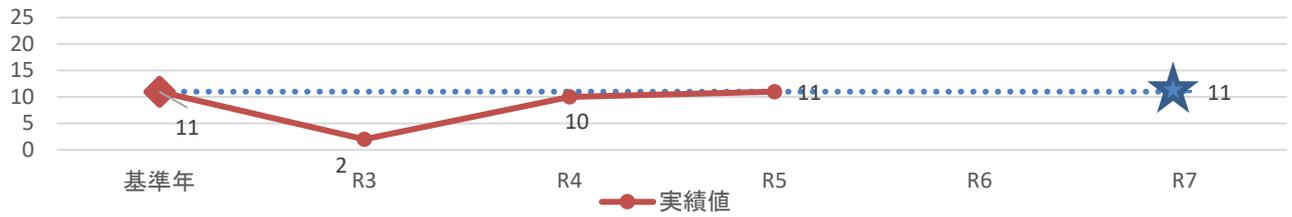
② 人材育成

継続 ●ナガサキ・ユース代表団については、国連が創設したユース非核リーダー基金のプログラム(※)において来崎する若手リーダーとの交流の場を設けることなどにより活躍の機会を増やし、引き続き国際社会で平和をアピールできる若者の育成に取り組む。
(※)日本政府の拠出により国連に創設した基金を活用し、核兵器国と非核兵器国の双方から、未来のリーダーを日本に招いて、広島及び長崎で被爆の実相に触れてもらい、核兵器廃絶に向けた若い世代のグローバルなネットワークを作ることを目的とするプログラム。令和5年から被爆85周年を迎える令和12年までの期間、2年間のコースの中で、参加者は核軍縮などについてオンラインで研修を受け、その後選定された参加者が両被爆地で行われる1週間の現地学習に参加する計画である。

新規 ●ユース非核リーダー基金のプログラムについては、来崎する各国の若者に被爆の実相に触れてもらうことで、核兵器のない世界の実現に向けた未来のリーダーの育成に貢献する。

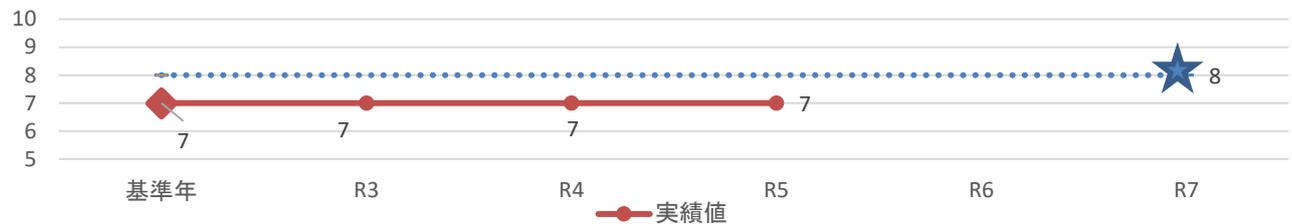
成果指標

| 指標名 | 基準値 (時期) | 目標値 | 実績値 | | | | | 基準値 からの 傾向 |
|--|---------------|---------------|-----|----|----|----|----|------------------|
| | | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | |
| 核不拡散条約(NPT)及び核兵器禁止条約に係る国際会議等での演説、関係者への要望回数(会議出席1回あたりの平均) | 11回 (R元年度) | 11回 (R7年度) | 2 | 10 | 11 | 0 | 0 | → |



国際会議への演説、関係者への要望回数については、NPT再検討会議出席のため渡航した際の活動を記載しているが、令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大が続き、2020年NPT再検討会議が延期となったため、代替として、平和首長会議が国連加盟国などに発出したアピール文やスピーチ動画の発出回数を記載した。

| 指標名 | 基準値 (時期) | 目標値 | 実績値 | | | | | 基準値 からの 傾向 |
|------------------|--------------|--------------|-----|----|----|----|----|------------------|
| | | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | |
| ナガサキ・ユース代表団の育成人数 | 7人 (R2年度) | 8人 (R7年度) | 7 | 7 | 7 | 0 | 0 | → |



施策を推進する主な事業

| | | |
|-----------------|---|---|
| 事業名 担当課 | 平和推進活動費 | 平和推進課 |
| 成果指標 | 核不拡散条約(NPT)及び核兵器禁止条約に係る国際会議等での演説、関係者への要望回数(会議出席1回あたりの平均) |  <p>【NPT再検討会議第1回準備委員会でスピーチを行う長崎市長】</p> |
| 目標値 | 11回 | |
| 実績値 | 11回 | |
| 達成率 | 100.0% | |
| 成果指標・ 目標値の説明 | <p>国際会議等でのスピーチや各国政府代表等との面談の折に核兵器廃絶を訴えることで、国内外へ向けて強く平和のメッセージを発信できることから、核不拡散条約(NPT)及び核兵器禁止条約に係る国際会議等での演説、関係者への要望回数を成果指標とした。</p> <p>平成29年度から令和元年度の国際会議出席1回あたりの平均回数を毎年度維持することとし、令和5年度は11回を目標値とした。</p> | |
| 事業目的 | 核兵器廃絶に向けた国際世論を喚起する。 | |
| 事業概要 | 国内外で開催される国際会議等に参加し、平和アピール活動を行うとともに、平和宣言の発出などにより核兵器廃絶と世界恒久平和を希求する被爆地長崎の思いを発信する。 | |
| 取組実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・長崎平和宣言の発出 ・NPT再検討会議第1回準備委員会出席(オーストリア・ウィーン市) ・核兵器禁止条約第2回締約国会議出席(アメリカ・ニューヨーク市) | |
| | 決算(見込)額 | 7,908,668 円 |

| | | | | |
|------|--|---|--|--|
| 2 | 事業名 担当課 | 核兵器廃絶長崎連絡協議会負担金 | | 平和推進課 |
| | 成果指標 | ナガサキ・ユース代表団の海外でのアピール活動回数 | |  <p>【NPT再検討会議第1回準備委員会でナガサキ・ユース代表団が主催したサイドイベントの様子】</p> |
| | 目標値 | 13回 | | |
| | 実績値 | 10回 | | |
| | 達成率 | 76.9% | | |
| | 成果指標・ 目標値の説明 | <p>国際会議での各国政府代表等との面会やNGOサイドイベントの開催などを行うことは、国際社会で平和をアピールできる若者の人材育成につながることから、ナガサキ・ユース代表団の海外でのアピール活動回数を成果指標とした。</p> <p>国際会議に出席した平成24年から令和4年度(令和2・3年度は開催実績なし)のユース代表団による海外でのアピール活動回数の平均値である13回を目標値とした。</p> | | |
| | 事業目的 | 「長崎を最後の被爆地に」と願う長崎県民、市民のため、長崎県、長崎市及び長崎大学の三者が連携し、核兵器廃絶の実現に寄与する。 | | |
| | 事業概要 | 三者がそれぞれ負担金を支出し、専門家による市民向け講演会の実施や次世代を担う人材育成などを実施する。 | | |
| 取組実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・NPT再検討第1回準備委員会派遣(オーストリア・ウィーン市) ・核兵器廃絶市民講座(5回)、特別市民講座(1回) | | | |
| | 決算(見込)額 | | | 4,990,099 円 |

令和6年度 個別施策評価シート

| | | |
|-----------------|-------------|----------------------------|
| 個別施策 | B2-2 | 平和な世界の創造に向け、ネットワークの構築を進めます |
| 2025年度に めざす姿 | 対 象 | 意 図 |
| | 市民・NGO・都市等が | 平和ネットワークの輪を広げ、連携している。 |
| 個別施策主管課名 | 平和推進課 | |

成果

① 関係機関との連携強化

● 平和首長会議について、国際会議における各国政府代表者や国際機関の関係者との面会の機会などを捉え、加盟都市数の増加に向けて働きかけたことなどにより、加盟都市数が131都市増加した。

● 日本非核宣言自治体協議会において、非核宣言を行っている自治体に加入案内等を送付したことなどにより、会員自治体が6自治体増加した。また、会員自治体に貸し出している巡回原爆展のパネルについて、見学する側が戦争や核兵器の問題について主体的に考えることができるような内容に見直し、令和6年度の配布に向けて準備を進めることができた。

② 平和ネットワークの構築

● 姉妹都市等との交流について、ブラジル・サントス市に姉妹都市提携50周年を記念した訪問団を派遣し、サントス市との姉妹都市提携50周年の記念行事やブラジル長崎県人会創立60周年記念式典に出席し、現地で龍踊を披露しているメンバーと意見交換を行うなどしたほか、ポルトガル・ポルト市からは姉妹都市提携45周年を記念したポルト市長を団長とする訪問団が来崎し、両都市とも互いに顔を合わせた交流を行うことで、姉妹都市間の結びつきをより一層深めることができた。

※再掲: A3-1

● 被爆地の平和への願いを世界に伝えるため、国外で平和活動を行う人材を「長崎平和特派員」として新たに2人認定したことにより、平和ネットワークを広げた。また、長崎平和特派員が行う平和発信事業への補助(1件)を令和5年度から再開し、平和意識の高揚に寄与することができた。

問題点とその要因

① 関係機関との連携強化

● 日本非核宣言自治体協議会について、会員自治体間で情報交換を行う機会や連携を深める機会が少ない。

② 平和ネットワークの構築

● 姉妹都市等との交流について、ホームページやフェイスブックなどで発信しているが、成果や効果を交流に携わった人以外が実感することが難しく、取組み内容が広く市民に伝わっていない。

※A3-1に再掲

● 長崎平和特派員について、国外で平和活動を行っている人・団体の情報収集を行っているものの、対象となる人・団体を見つけることが困難であり、今後の認定候補者の確保の見通しが十分には立っていない。

今後の取組方針

① 関係機関との連携強化

継続 ● 平和首長会議加盟都市のネットワークを拡大し、国際社会における影響力を高めるために、各国政府代表者や国際機関の関係者との面会時などの機会を捉え、加盟促進の協力要請を行い、加盟都市の更なる増加に向けて取り組んでいく。また、令和7年度に長崎で開催予定の平和首長会議総会に向けて、着実に準備を進めていく。

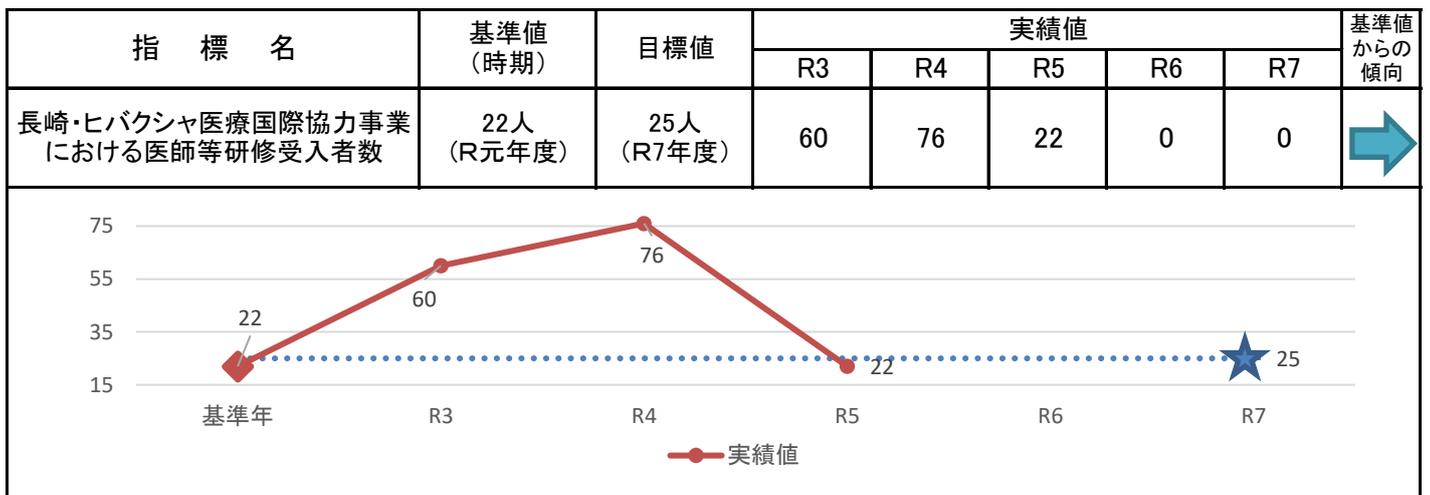
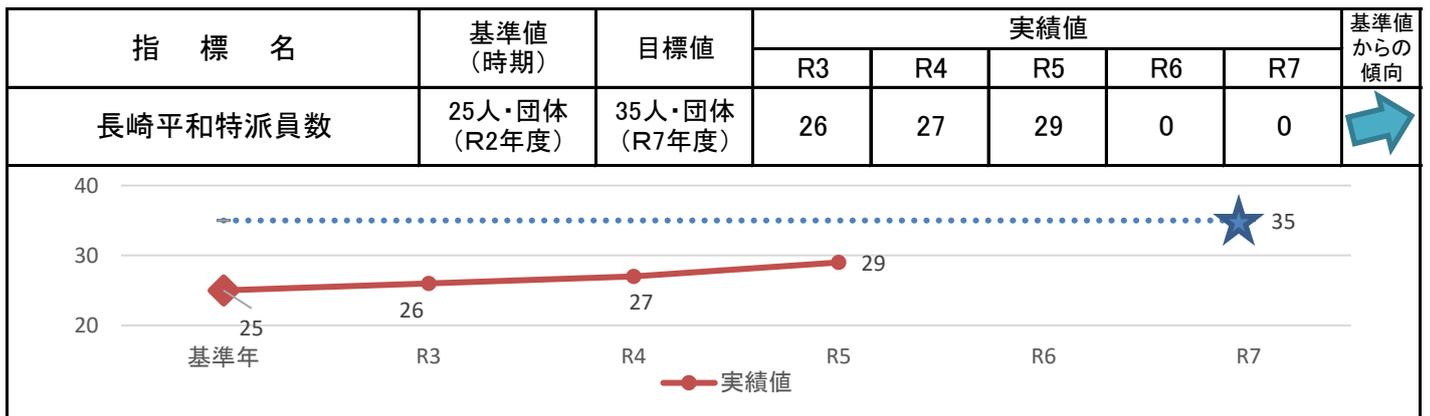
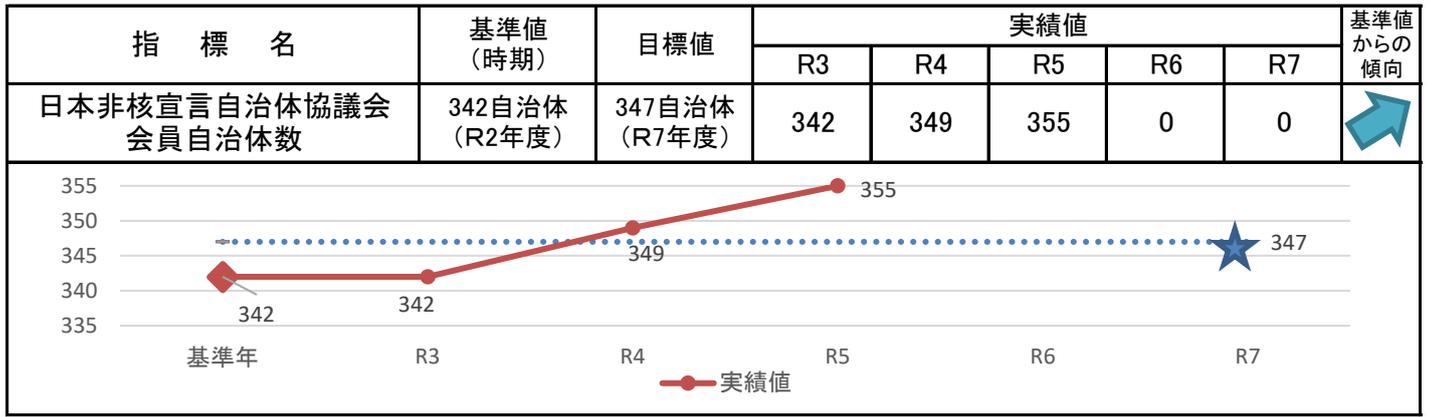
継続 ● 日本非核宣言自治体協議会については、令和6年度に設立40周年を迎えることから、記念行事を開催し、会員自治体間の連携を強化するとともに、本協議会の活動を広く周知する。また、内容を見直した巡回原爆展のパネルの貸し出しを開始することなどにより、会員自治体における住民に向けた取組みを充実させることで、加盟自治体の増加に結びつける。

② 平和ネットワークの構築

継続 ● 平和ネットワークの輪が広がるよう、姉妹都市等との都市間並びに市民間交流を深めていく。また、姉妹都市等での原爆展の開催、周年事業等様々な機会を活用し、市民同士の交流支援や情報発信の充実に取り組む。

継続 ● 長崎平和特派員については、国外で平和活動を行うことができる人または団体について、報道やネットワーク等を通じて情報収集に努め、認定につなげていく。

成果指標



施策を推進する主な事業

| | | | |
|---|-----------------|---|---|
| | 事業名 担当課 | ヒロシマ・ナガサキ平和アピール推進委員会負担金 | 平和推進課 |
| | 成果指標 | 海外原爆・平和展開催都市数 |  <p>【イギリス・ダラム市での原爆・平和展の様子】</p> |
| | 目標値 | 2都市 | |
| | 実績値 | 2都市 | |
| | 達成率 | 100.0% | |
| | 成果指標・ 目標値の説明 | 海外で原爆・平和展を開催することにより、広く被爆の実相を伝えることができるため、開催都市数を成果指標とした。 過去3か年(令和2~4年度)の開催実績の平均値である2都市を目標値とした。 | |
| 1 | 事業目的 | 長崎市と広島市が共同して核兵器廃絶と世界恒久平和に向けて、平和アピールを推進する。 | |
| | 事業概要 | 長崎市と広島市がそれぞれ負担金を支出し、核兵器廃絶のための都市間連帯を世界に呼びかけるとともに、平和意識啓発のための事業を実施する。 | |
| | 取組実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・平和首長会議未加盟都市への加盟要請 ・武力衝突の平和的解決と核兵器廃絶を求める平和首長会議共同アピールの発出 ・公開書簡—G7広島サミットを目前に一の発出 ・海外原爆・平和展の開催(2都市) イギリス・ダラム市 令和5年6月7日~9月10日、入場者数約8,200人、 イギリス・ベルファスト市 令和6年1月8日~2月28日、入場者数約13,650人 | |
| | | 決算(見込)額 | 11,269,183 |